

## 3-6 意見・要望

問 13 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、1,918 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

### ●生活について

- ・避難生活の長期化への不安
- ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安
- ・元の生活、安定した生活の回復
- ・元の生活に戻ることにあきらめ
- ・現在の生活について
- ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて
- ・現在の生活の経済的な不安について
- ・現在の生活の健康に関する不安について
- ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について
- ・現在の生活全般の不安について
- ・将来の生活に関する考えについて
- ・将来の生活の経済的な不安について
- ・将来の生活の健康に関する不安について
- ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について
- ・将来の生活全般の不安について
- ・生活（再建）支援について
- ・その他

### ●震災発生前の居住地について

- ・帰還困難区域への立入りについて
- ・帰還困難区域等の設定について
- ・所有する住まい・土地の買取りについて
- ・自宅の現状（被害状況）について
- ・自宅の再建・改築・解体について
- ・元の住居や土地などの管理・処分について
- ・元の住居や土地に対する税について
- ・所有する墓地の維持・管理・移転について
- ・その他

### ●賠償について

- ・賠償内容・方法について
- ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について
- ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について
- ・その他

### ●帰還について

- ・帰還への不安
- ・帰還可能時期の明確化について
- ・帰還したい
- ・帰還しない
- ・現時点では帰還の判断ができない
- ・帰還に関する施策について
- ・帰還を望まない人への対応について
- ・その他

### ●避難期間中及び将来の住宅について

- ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について
- ・復興公営住宅の建設地・形態等について
- ・復興公営住宅に係る経済的負担について
- ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安
- ・復興公営住宅への入居について
- ・居住場所の確保について
- ・借上げ住宅について
- ・住宅の購入について
- ・その他

### ●除染について

- ・除染作業の意義について
- ・除染作業にかかる費用の他への活用について
- ・除染作業の効果などについて
- ・除染作業の実施箇所などについて
- ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について
- ・除染作業スケジュールの明確化について
- ・除染廃棄物の処理について
- ・その他

### ●復旧・復興について

- ・復旧・復興の遅れ、長期化について
- ・復旧・復興のスケジュールについて
- ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について
- ・町村合併について
- ・ライフライン・インフラの整備について
- ・社会福祉施設の整備について
- ・医療施設の復興・充実について
- ・学校の復興・充実について
- ・商業の復興・充実について
- ・住民の参加・自助努力について
- ・早期の原状回復・復興実現について
- ・その他

### ●原発の安全性について

- ・廃炉作業の迅速な実施について
- ・廃炉作業全般について
- ・その他

### ●原発事故に対する対応について

- ・行政や東電の対応について
- ・対応の長期化、遅れについて
- ・情報の開示・発信について
- ・中長期的スケジュールについて
- ・その他

### ●その他

- ・今後のエネルギー政策について
- ・行政に対する謝意、励まし
- ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

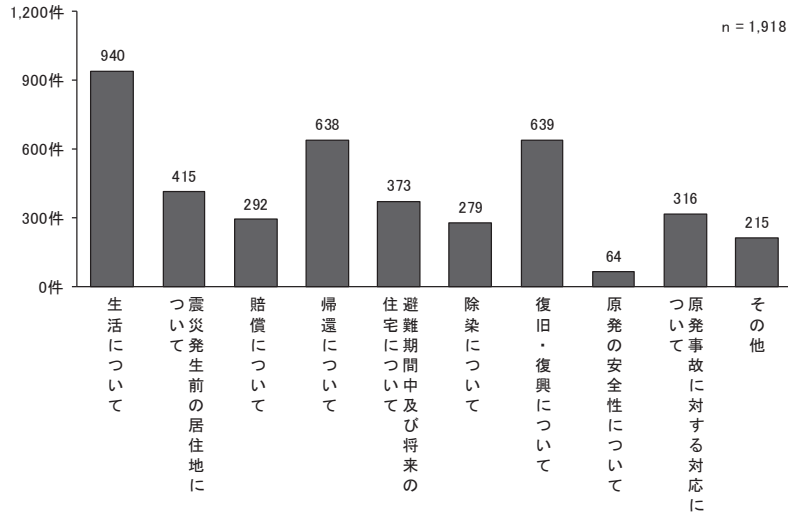
※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

### III 調査結果

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が940件と最も多く、次いで「復旧・復興について」が639件、「帰還について」が638件などとなっている。

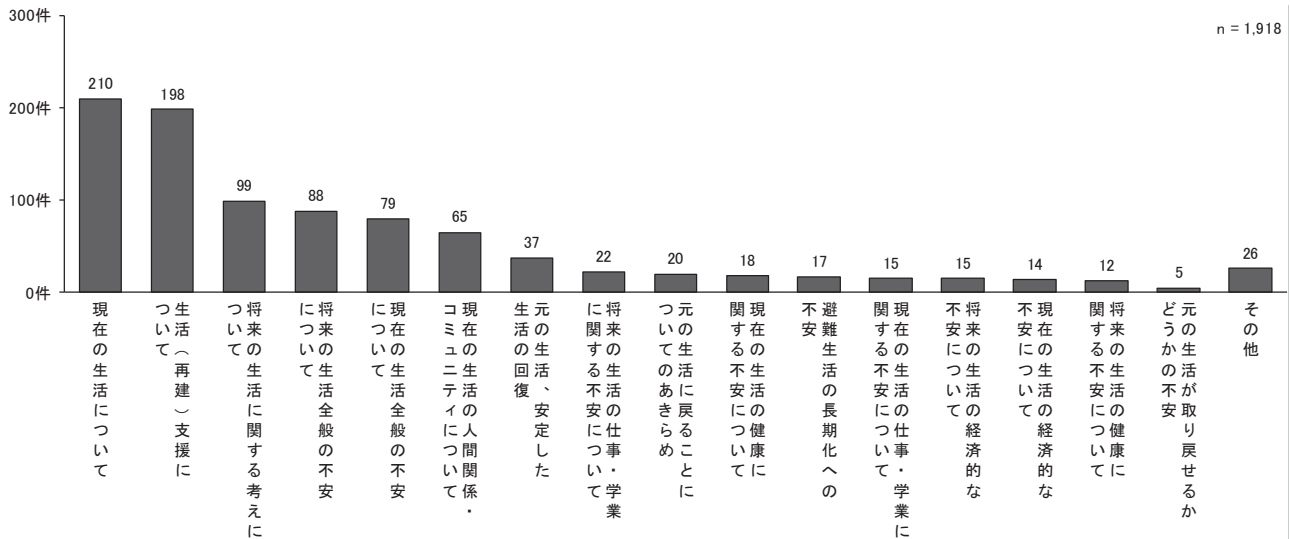
<図表3-6-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「現在の生活について」が210件と最も多く、次いで「生活（再建）支援について」が198件、「将来の生活に関する考えについて」が99件などとなっている。

<図表3-6-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【現在の生活について】**

- 補償を十分にいただき、住宅も確保できました。地域に根づき、ここで生きていこうと思っています。子ども達も近くにいますし、安心して生活できると思います。(60代)
- 我々老齢の身がいくら気をもんでも決して元の生活には戻れません。現在毎日を元気に健康で過せる事のみ祈っています。(70代以上)
- 震災から4年半。子ども達は現在の生活に慣れ、すでに、浪江町の事は忘れかけております。(40代)

**【生活（再建）支援について】**

- 県内の被災者と、県外の被災者に対するサービス（物資）が平等でない。(30代)
- 支援等のサービスが仮設の方々や浪江町役場付近の人々に偏っている感じがする。いろいろな機関が相談受付を開いてくれるのは有難いことだが、個人事業だと平日休めないで少しでいいので土日祝で相談できる場所が欲しい。(40代)
- 震災当時、世帯主ではなかったので震災後家を新築しても住まいの給付金等が申請出来ない。住民票も浪江町のままなので避難先の自治体の補助の対象にもならない。(50代)

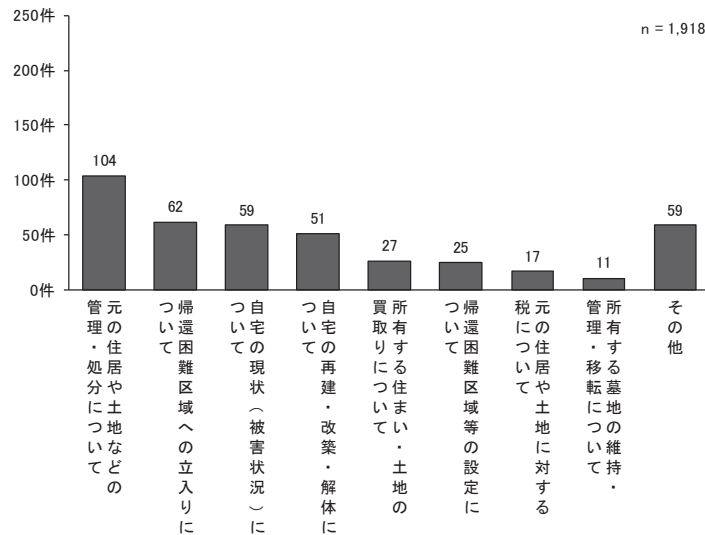
**【将来の生活に関する考えについて】**

- 新しい土地で仕事も再開し、2年が経ち生活は安定しています。もはや過去を蒸し返してもしようがないので新しい土地で骨を埋めようと思っています。(40代)
- 浪江は、子ども達の「ふるさと」には出来ません。新しい土地をふるさとにしてあげる事に決めました。それが、親の私達が出来ることだと思います。でも、私のふるさは浪江です。それは忘れません。(30代)
- 現在2才半になる子どもにとっては浪江町は「ふるさと」では無いので、帰るとしても、子どもが成人して、私が定年を迎えて老後の生活及び、代々の墓を守る為だけに帰る事になると予想しています。父や母は、帰れるとなったらすぐにでも帰るでしょうが、私としては、孫とのんびりした生活をして欲しいと考えています。(30代)

#### (2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が104件と最も多く、次いで「帰還困難区域への立入りについて」が62件、「自宅の現状（被害状況）について」が59件などとなっている。

＜図表3-6-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

#### 【元の住居や土地などの管理・処分について】

- ・ 帰還困難区域解消までの、自宅・畑等の管理方法（鳥獣被害対策も含めて）について、国の考えを示すこと。（60代）
- ・ 残された家屋を後々、どのようにするのか早く決定してもらいたい（臭いやカビがひどく、掃除や片づけなども今後無理な状況なので）。（40代）
- ・ 戻らないと決めています、浪江の土地をそのまま置いておくよりも何かに活用していただけたらと思います。（50代）

#### 【帰還困難区域への立入りについて】

- ・ 帰還困難区域の立入りを、身分証明書の提示のみで入れるよう、立入り方法の改善を希望する。（50代）
- ・ 一時帰宅した時浪江町内に宿泊施設があると助かりますが…。現在浪江町に一番近い宿泊施設はどこでしょうか。（70代以上）
- ・ 帰還困難区域だからといって、何の情報もなく、いつまで待っていれば良いのですか？自分の家に帰るにも手続きしないと帰ることが出来ない！時間制限があり、暑い時期の草刈りは大変です。（50代）
- ・ 浪江一時立入バスの場合、2時間では部屋の中を一度も片づけた事有りません。時間がもう1時間長かったらと思います。（70代以上）

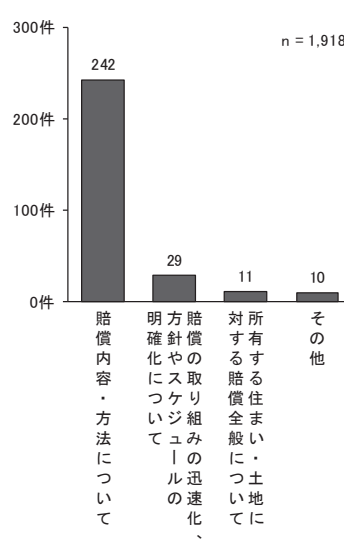
#### 【自宅の現状（被害状況）について】

- ・ 地震では自宅は無事だったがその後、ドロボーに入られ、窓が割られ、何度かの地震や動物の侵入などで家が枯れていっている。屋根も補修出来ず雨漏りもし始めている。（50代）
- ・ 墓参等で浪江に帰る機会があるが、わがふるさとの風景を見て、憂鬱な気分で帰ります。荒れ果てた家や田畑は、管理できないまま、朽ち果てようとしている。（50代）
- ・ 浪江の家は震災時のままで、ネズミの天国です。どうすれば良いのか分かりません。倉庫の戸は壊れどうしようもありません。動物にやられているでしょう。（70代以上）

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が242件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が29件、「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が11件などとなっている。

<図表3-6-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【賠償内容・方法について】**

- 不公平感がない様に、平等にして下さい。みな状況は違って、同じく悲しい気持ちで生活しています。でも頑張っています。賠償はなるべく一律に。何もしない人の方が救われるのはおかしいですよ。(40代)
- 私の住んでいた地区は居住制限区域なのですが何で帰還困難区域と差別されるのかわかりません。全く同じです。少しだけ住んでいた場所が違うだけでこれだけの差をつけられるのは、とてもひどいです。同じ賠償を求めます。(60代)
- 営業賠償を2年間で終了するのはおかしい。事業再開しても元に戻るわけもなく、被災者の立場に立って、営業賠償を続けてほしい。(60代)
- いつまでも補償補償と言っていては、国の財政を費やすばかりで、いつどこで、何の災害が起こるかもしれない状況の中、自分たちのことばかり主張するのはどうかと思う。東電からは再建するに相当な補償を十分頂けたと思う。(50代)

**【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について】**

- 区域再編の際、事故から6年すぎて解除になれば帰還困難区域の地区と同等の賠償になると説明された記憶しておりますが、その様になるのかどうか。(70代以上)
- 早急に東電に対し、ADRで認められた精神的賠償1人150,000円/月を実現させて下さい。東電が出し渋っているのであれば、町で立替一人一人に対し支払い、後で町が東電からその支払った分を補てんしてもらるようにして下さい。(30代)

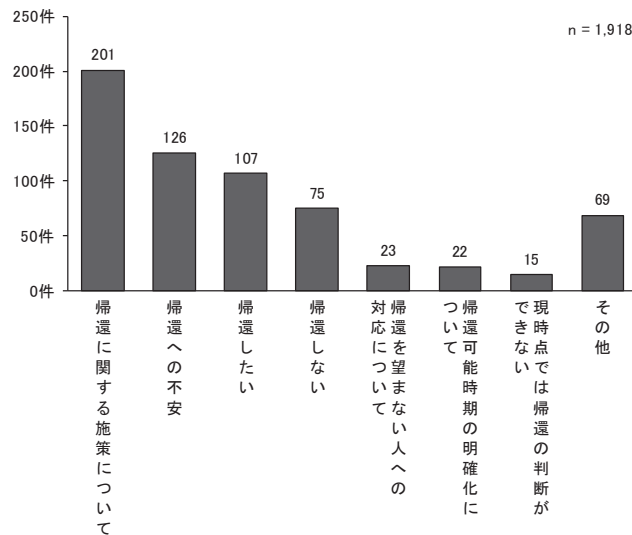
**【所有する住まい・土地に対する賠償全般について】**

- 国、自治体への要望として、浪江町に残してある財物の管理上の問題についてどのような賠償をお考えなのかを公報等でお知らせ願います。(70代以上)
- 解除後、就労の関係ですぐに戻れない場合、元の家を再建、補修の期間(数年にわたる)の補償はどうなるのか。その間に賠償はどんどん減ってなくなってしまいます。(70代以上)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が201件と最も多く、次いで「帰還への不安」が126件、「帰還したい」が107件などとなっている。

<図表3-6-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【帰還に関する施策について】**

- ・ 楢葉町のように帰る時期を無理やり決められて、その日時が来たら町に戻らないといけないみたいな取り決めはしないでほしい。インフラを完全に復旧・整備し、被爆低減対策、医療環境、学校なども問題なくなった時点で住民の帰還を考えてほしい。(40代)
- ・ 復興の名の下に住民の帰還を促している様ですが、原発内での連日の様に報道される不祥事除染後の線量の精査家屋の劣化で住める様な状態ではない等々、様々な不安の払拭から始めなければならないと思うのですが。(60代)
- ・ 溶けた燃料の位置状態さえつかめない状況なのに解除だ帰還だという気持ちが全く理解できない。町としても、町民の命を守ることを優先に考えるべきではないだろうか。(50代)

**【帰還への不安】**

- ・ 子育て世代の帰町が少ない場合、町が成り立つのか心配である。子育て世代が帰町しなければ数年後には限界集落になってしまうのが心配である。高齢者だけでは町は成り立たないのではないかと。(60代)
- ・ 医療、商店、学校、地元の友人等々すべてが同じ時期に帰還できるならともかく当然それぞれの事情があるでしょうから、五月雨のようには戻らないでしょう。そのような中で帰るのはすごく勇気と決断が必要です。(40代)
- ・ 町の西部、津島地区等の線量が高いので、自分の地区だけ除染が済んでも、安心して、住めるのだろうかと考えてしまいます。(40代)

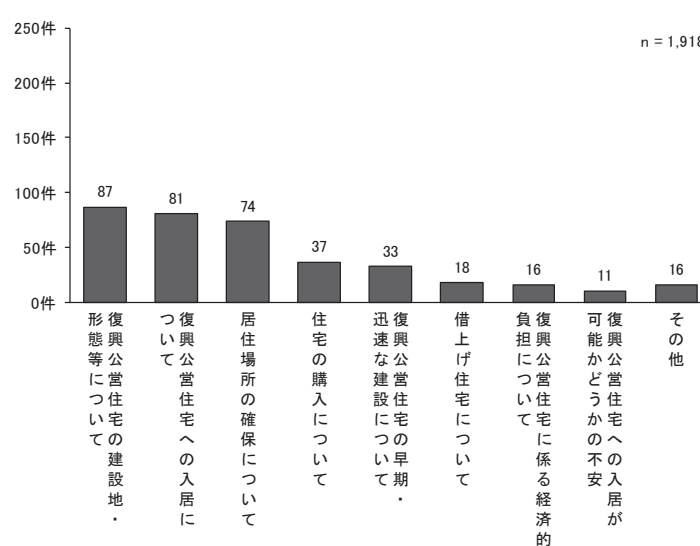
【帰還したい】

- 一日も早く浪江町に帰りたいと家族全員強く思っています。(10～20代)
- 浪江町は親も自分も生まれ育ったところです。将来介護施設等ができるのなら、せめて、自分は年老いてからは故郷で過ごしたい。年老いたら町の世話になりたいと思うのは、都合の良い考えなのか、と思いつつです。(50代)
- 月日が経つにつれて、どんどん浪江町の自宅の様子を忘れていく自分がいます。生まれた地元には、本心帰りたいと思いますし、離れてしまって遠くに居る人にも会いたいですね。願っております。(50代)
- 浪江町ですべての安全が確保されたら帰りたいと思っております。(70代以上)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が87件と最も多く、次いで「復興公営住宅への入居について」が81件、「居住場所の確保について」が74件などとなっている。

<図表3-6-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【復興公営住宅の建設地・形態等について】**

- 復興公営住宅の間取りが狭く部屋数が少ない。元住んで居た住居は部屋数も多かった人が多いと思われる。子ども家族が来ても泊まれる位の間取りにしないと長期に住む人が少なくなるのではないかとと思われる。私の住宅取得の判断要素の一つであった。(60代)
- 福島市に避難している人数が多い割には復興住宅が少ないようです。困っている人が多いと思います。(70代以上)
- 公営住宅(戸建)でのペット可の物件が少ないと思う。現在ペット(室内犬)が居るので現在の住居から公営住宅に移りたくても南相馬市には(周辺も)無いので不可である。間取りも収納が少ない感じがする。現在2LDKの借上住宅に住んで居るが、公営住宅の収納と大差ないので引っ越しても物を収納する場所に困ると思う。(10~20代)

**【復興公営住宅への入居について】**

- 復興住宅に2回申し込んだが、落選してしまった。郡山を希望しているが、浪江町民の倍率が高いように感じる。他の市町村専用の復興住宅は、空きがある中、私が希望した郡山の浪江専用復興住宅は、空きがないなどの現状である。他市町村との調整も把握したうえで募集をかけ、希望する場所へ入居できるようにしてほしい。(30代)
- 復興公営住宅申し込みの件についてなぜ申し込み順にしてくれないのか。親子であっても別々の棟に離され抽選とはいえども孤独化される抽選を考えるべきと思う。被災者にとって4年6ヶ月の間、国、県の指示にしたがい故郷を追われ我慢して来ました。最後の住家となる公営住宅くらいは心の復興住宅にしてほしい。毎日が不安です。(70代以上)
- 両親に復興住宅への入居を勧めたいが、現状は借上住宅で家賃を払わなくて良い状況なのに、家賃を払ってまで住まなくてもいいかなと今でも狭いワンルームに夫婦2人で住んでいる。(30代)



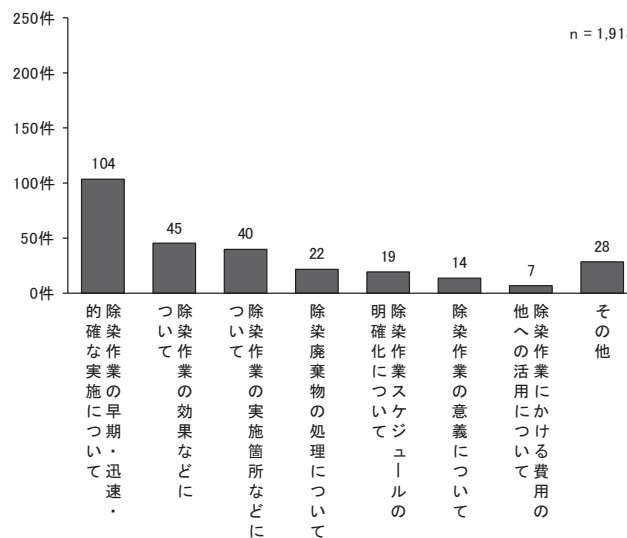
【居住場所の確保について】

- 南相馬まで移動しましたが土地が高くて困ります。原発避難の人のための土地はなし。何区画～何十区画とか、計画してほしかった。あちこち、バラバラ1～2区画では住みにくいと思うので今は新地に探しています。(60代)
- 福島市の南沢又の土地ですが、そこに浪江町のコミュニティが出来るのであれば住みたいという人はたくさんいます。福島市に住んでいれば5年も経ち、そこが良くなります。浪江町長も住民の気持ちをふまえて、福島市長にお願いしていただきたいと思います。(60代)
- 自力で住宅を検討しているが被災者という理由から地元の人よりも土地が高い様に感じられる。(50代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が104件と最も多く、次いで「除染作業の効果などについて」が45件、「除染作業の実施箇所などについて」が40件などとなっている。

<図表3-6-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】**

- 除染作業の数値目標がないということに驚いています。国を信頼することができない。町としては、放射線量を年間1ミリシーベルト以下にするとやっているが、国の除染作業ではとても達成できるとは思えません。町としてどのような対策をとるのか、明確な答えが聞きたい。(50代)
- 除染作業で自然を破壊しないでほしい。削土作業で山林を破壊して水害(人災)、河川氾濫道路冠水を起こさないでほしい。(60代)
- できるだけ除染をして元の状態にしてもらいたいと国にお願いして下さい。(70代以上)

**【除染作業の効果などについて】**

- 除染作業員の話聞く事が多いが、除染後の場所が本当に除染出来ているか、信用できない話を良く聞く。(30代)
- 持ち家の除染に関して、立合いは不要とありましたが、実際に目で見えた空間線量や、地表面線量がどれだけ減ったのか知りたい。(40代)
- 4年半以上経過してから除染をして、どれ程の効果があるのか。(60代)

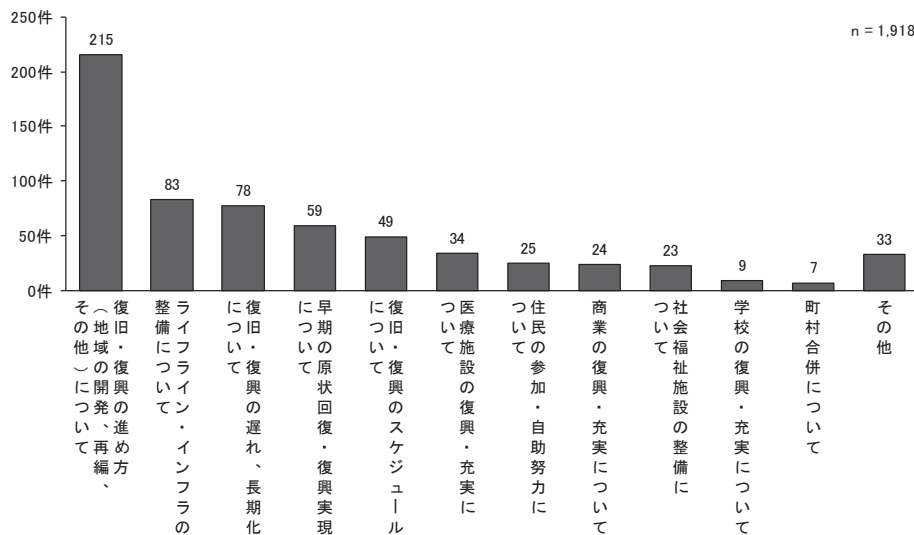
**【除染作業の実施箇所などについて】**

- 津島地区も除染してください。一部地域だけ何もしないなど納得しないし、我慢ならない。(30代)
- 浪江町全域の除染が必要である。津島地区山林、川底、ダム湖底のセシウム等を除去しない限り、下流域での生活はしたくない。(50代)
- 津島地区は除染しないようですが農地などは国や自治体ではどのように考えているのですか。田畑が山のようになくなっていくのが淋しいです。(70代以上)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが215件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が83件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が78件などとなっている。

＜図表3-6-8 復旧・復興についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】**

- ・ 国・県はもっと現地に足を運んで、復興を現場目線で進めていただきたい。（40代）
- ・ 浪江町の中心市街地に空き家・廃屋が点在する事の無い様に、土地区画整理事業を進め居住人口に応じた魅力的でコンパクトなまちづくりに取り組んで頂きたい。（50代）
- ・ 若い人が帰還できるよう多くの企業を浪江町に誘致して、企業と共に町の発展を願う。（70代以上）

**【ライフライン・インフラの整備について】**

- ・ 上、下水道の早期復旧・避難指示が解除されないと復興はスタートしないので、道路などの基盤を元に戻し、津波の浸水区域などは標識等で明確にする。（50代）
- ・ 町のインフラを早く整備してほしい。戻るにしても住める環境が整えば戻る人もいると思う。（50代）
- ・ 家の後片づけにも帰れないので早急なJRの復旧を望んでいます。（60代）

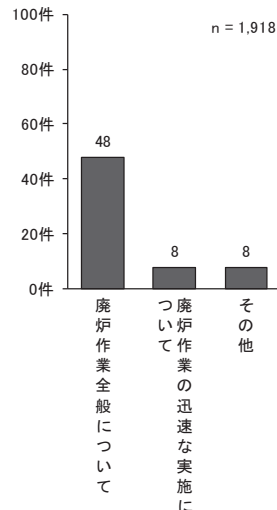
**【復旧・復興の遅れ、長期化について】**

- ・ 復旧、復興にはまだまだ時間がかかると思いますが、よろしくお願いします。（40代）
- ・ 現在の復旧・復興のスピードでは、帰還者の問題も含めて、浪江町の存続に危機感を感じる。（40代）
- ・ 復興はスピード感を持ってやって下さい。4年6ヶ月になるが目に見える形にしてほしい。（70代以上）

#### (8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が48件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が8件などとなっている。

〈図表3-6-9 原発の安全性についての意見〉



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

#### 【廃炉作業全般について】

- 長期にわたる廃炉作業に伴う放射性物質の飛散が懸念されるため、放射性物質の監視には万全を期していただきたい。(50代)
- 国、自治体で、一生懸命して頂いている事は分かりますが、町民により添って取り組みをして頂きたいと思います。(60代)
- 第一原発構内の作業が多様すぎる。もっとしぼった作業にすべきで、すべてを東電が把握できているとは思えない。今後取り出すとしている燃料の保管場所は、どこなのか、高線量の物をどうするのか、明確でない。ゴミ箱がないのにゴミを増やしているのではないか。(50代)

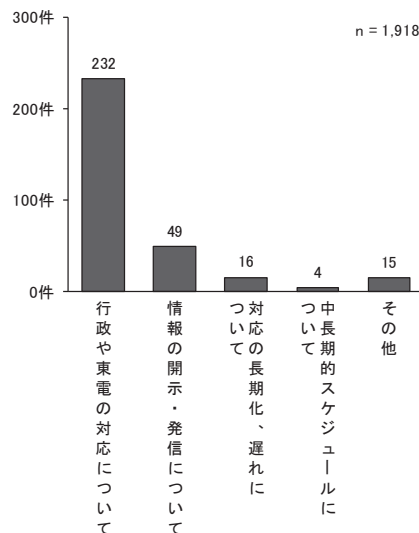
#### 【廃炉作業の迅速な実施について】

- 大震災や原発事故に対して、国や浪江町、関係機関などがよく頑張っていることに感謝いたします。浪江町民は全員地元に戻りたいと思っています。一日も早く原発の収束や除染が進めばと願っております。(60代)
- 東京電力は早く修復して、電力会社をやめて下さい。それでないと、なにも始められない。浪江町住民は安心して戻れないし、浪江で暮らすなど、考えられない。(70代以上)
- 原発2号機を早く解体してほしい。(50代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が232件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が49件、「対応の長期化、遅れについて」が16件などとなっている。

<図表3-6-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【行政や東電の対応について】**

- 今回の事故に関して、責任所在を明確にし、今後へ向けて反映してください。(30代)
- 話が風化しないように、事務的手続きにならないように心を込めた国の活動であって欲しいです。(40代)
- 東電に対する不満はどこに訴えれば良いのかわからない。遠くに居るので直接東電の人と話す機会がないので賠償が進まない。(50代)

**【情報の開示・発信について】**

- 復興、除染、賠償など、他人が知っていて、自分が知らない事が多々ある。浪江町メール、浪江新聞（タブレット）に情報もれが無いように町が知っている情報は全て早めに伝えてほしい。(40代)
- 帰還困難区域については、説明不足のような気がする。今後の計画、賠償等、具体的にお知らせをお願いしたいと思います。(70代以上)
- 原発事故の原因がはっきりしていない。安全性の確証を我々にも教えて下さい。(70代以上)

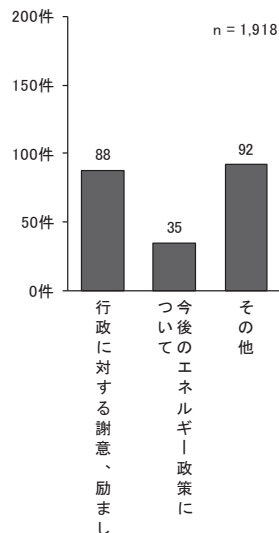
**【対応の長期化、遅れについて】**

- 東電（特に上層部）は、いつまで経っても上から目線と感じる。この状況を何と考えているのか？保身をしているとしか思えない。このまま（今の東電の考えや、実状から思うと）では、あと30年経っても40年経っても到底元に戻る事は期待できない。(50代)
- もう原発の話をするのもどうかというほど時間が経っています。(60代)
- 帰還困難区域は（除染も整備も）何も聞こえない。先の見通しが無し。この現状が一番心を重くしている。あと、何年待つのだろうか。(50代)

#### (10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が88件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が35件などとなっている。

＜図表3-6-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

#### 【行政に対する謝意、励まし】

- 浪江町民、町役場職員の方々、大変だと思いががんばって下さい。(40代)
- 復興にご努力されている関係者の皆様には、本当に頭が下がる思いです。様々な苦勞や困難がおりだと思いますが、これからも一日も早い復興に向け、ご協力とご支援をお願い申し上げます。(50代)
- 浪江町役場の方々には、いつも親切な対応をして頂き大変助かっております。ありがとうございます。(60代)

#### 【今後のエネルギー政策について】

- 原子力発電所の事故の原因の究明をしないままの再稼働の動きに憤りを感じる。経済優先も結構だが、立地自治体の住民の危険と隣合わせの生活を見て見ぬふりで、利益優先なのは、エゴイズムである。原子力発電を全面否定するつもりはないが、教訓を活かして、再生可能エネルギーに国策として力を入れるべきである。(40代)
- 相双地域は自然エネルギー（太陽光、風力等）の基地及びそれらの研究機関として再利用を検討すべきと思います。(60代)
- このような体験をするのは福島が最初で最後にしてほしい。全国各地の原発の再稼働には、脱原発の方向で断固反対する！（60代）